

地方公共団体金融機構シンポジウム
「社会構造変革下における教育政策をめぐる地方財政」

鎌倉市における教育行財政のチャレンジ

2024.8.8 鎌倉市教育長 高橋洋平

鎌倉市教委の挑戦を
Noteで発信中！



高橋 洋平

鎌倉市教育長

2005-2022



文部科学省

2013-2015



Berkeley
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

2016-2021



福島県

2022-2023



pwc

2023-



鎌倉市

1

「共助」で学校にワクワクを
生み出す
—かまくらスクールラボファンドー—

「揃える」から、「伸ばす」へ

社会システム

これまで

工業化社会 大量生産・大量消費

巨大化する都市環境 指数関数的な人口増

経済成長

新卒一括採用・年功序列



今、これから

新たな
価値創造

イノベーション



SDGs

Society 5.0

一人ひとりの多様な幸せ well-being

DX



地球規模課題 多様性 安全・安心

AI 人材の流動化 総合知



教育システム

同質性・均質性
一律一様の教育・人材育成

一斉授業

形式的平等主義

みんな一緒に みんな同じペースで みんな同じことを



多様性を重視した教育・人材育成

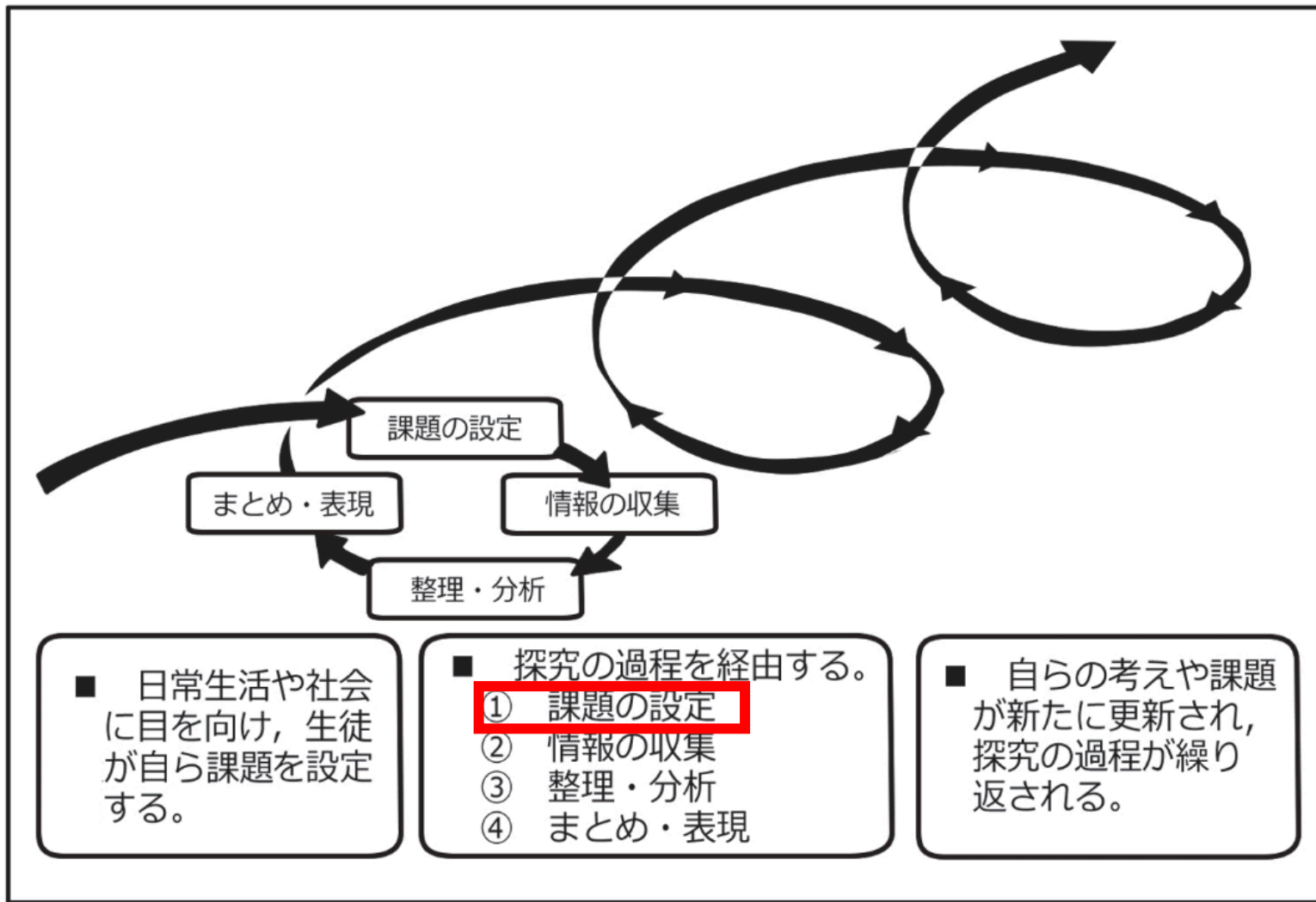
個別最適な学び

協働的な学び

それぞれのペースで自分の学びを 対話を通じた「納得解」の形成



正解よりも、課題の設定（問い）が極めて重要に



定義案：
唯一の解がない問と向きあい続ける、
習慣・姿勢を習得する学び
(学び方を学ぶ)

学校がミライを語れていないのは…



- ① 学校の自前主義・リソース不足
→社会の要請に答えられていない
- ② 平等重視の弊害
→社会とコラボした尖った教育をしにくい
- ③ 補助金・税財源に依存
→探究的な学びに柔軟に対応できない

20年後の社会を見通した要請



子どもも、教師も
ワクワクするような
学びをつくろう。



鎌倉 スクールコラボファンド



これまで2,600万円ほど調達 基金条例も3月に成立



人材 × テクノロジー
知識・経験 最先端技術

鎌倉 スクールコラボファンド

大学やNPOとのコラボレーションを通じて、魅力的な人材や最新テクノロジーを活用して鎌倉の小中学校での教育活動を豊かにしていく。そんな機会を増やすための支援金を募集する、ふるさと納税の仕組みを活用した行政主導のクラウドファンディングです。

≡ 第4弾 受付スタート ≡

ワクワクする教育をみんなでかなえよう

- ★SDGs等のさまざまなリアルな社会課題への興味や関心を深める
- ★子どもたちの自発的な発見や研究によりアイデアや解決策を見出す

鎌倉市民からのご支援も大歓迎！



鎌倉市長
柏尾 崇

神奈川県鎌倉市よりメッセージ

今後訪れるSociety5.0. より良い社会を創るために必要な教育を学校と社会が協働して実現していく。そんなワクワクする学校づくりを鎌倉から発信していきます！



鎌倉市教育長
高橋 洋平

お申込みはコチラ

ふるさと納税は
鎌倉スクールコラボファンドへ！

【第4弾】
受付期間

2023 11.1 (水) - 2024 1.29 (月)



【第4弾】多彩なコラボレーションで市立小中学校にワクワクする教育を！～鎌倉スクールコラボファンド～

カテゴリ：子ども・教育



力学的で
達成！ 学びを、
鎌倉の子どもたちに。

人材 × テクノロジー
知識・経験 最先端技術

鎌倉 スクールコラボファンド

✕ ポスト いいね! シェアする

寄付金額

11,720,739円

334.8%

目標金額：3,500,000円

達成率	支援人数	終了まで
334.8%	28人	受付終了

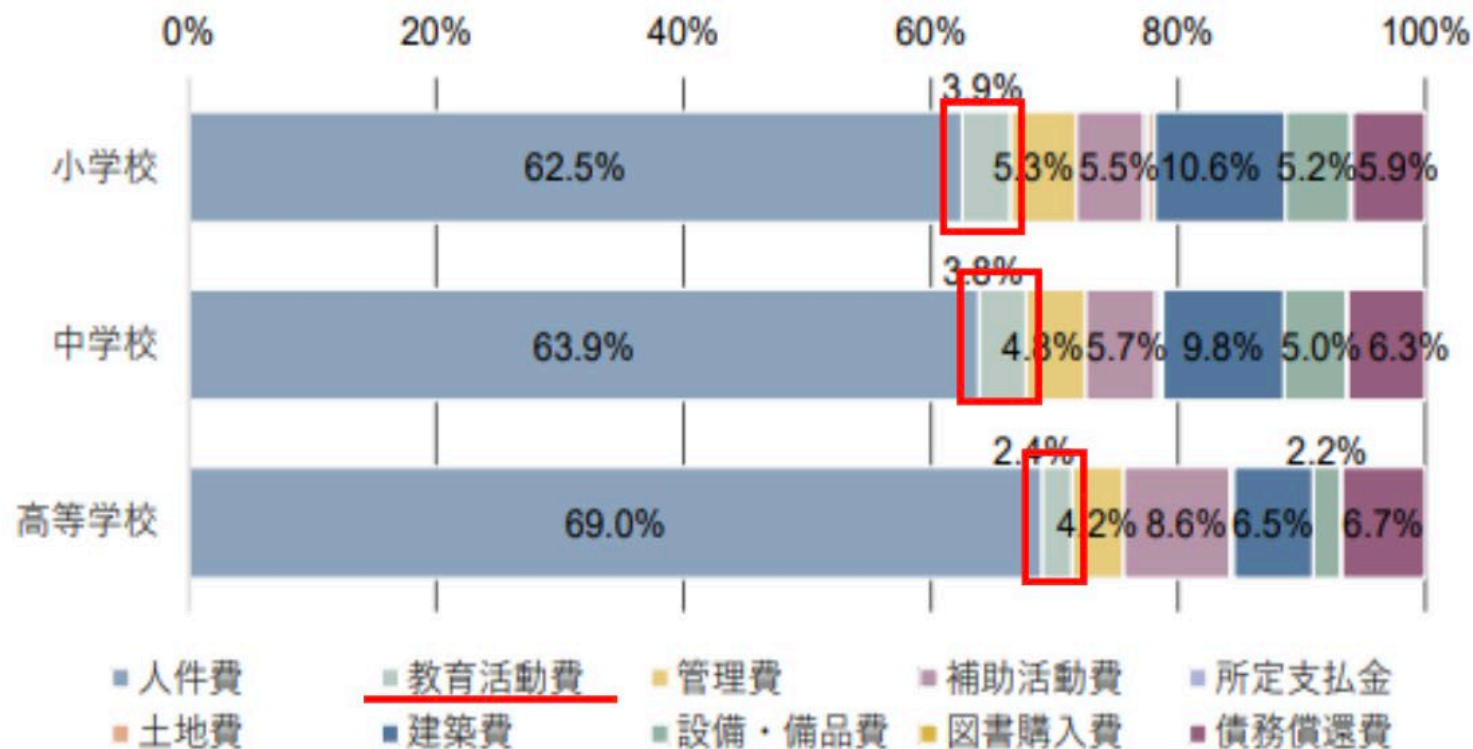
📍 神奈川県鎌倉市(かながわけん かまくらし)

♡ お気に入り

学校の予算のうち教育活動費は限定的

- 学校教育費の支出項目別のうち、人件費が6～7割と大半。建築費や設備・備品費、補助活動費、債務償還費等も多く、探究的な学びなどに必要な教育活動費は限定的。

図表 1-3 学校教育費（学校別）の支出項目別割合（2020年度）

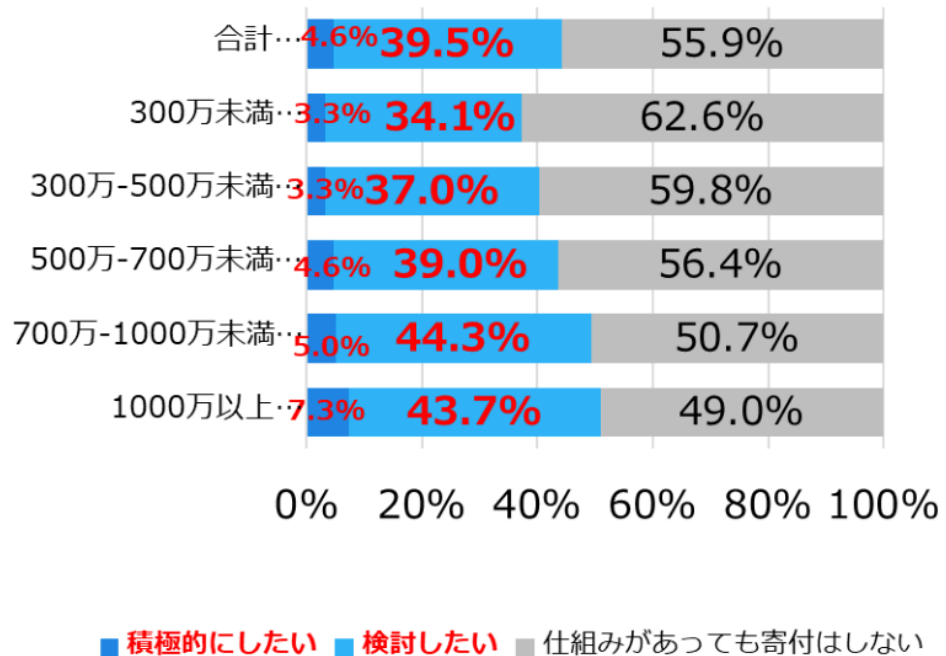


資料) 文部科学省「地方教育費調査」より作成

教育機関に寄付したい人は存在。企業も教育への関心高い

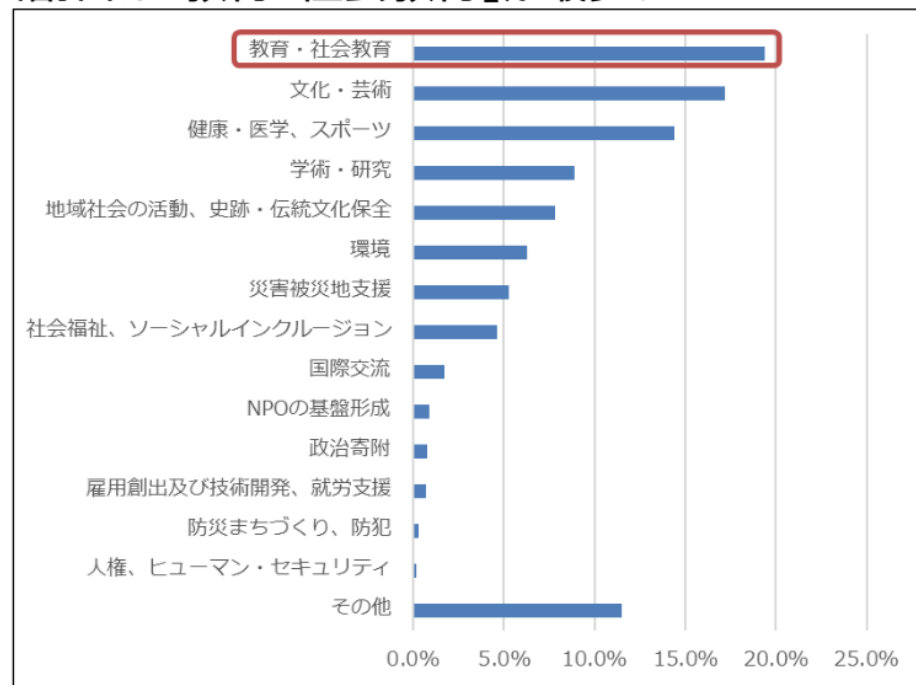
個人の教育機関への寄附意向

Q.教育機関に寄附できる仕組みがあれば、寄附しても良いと思いますか。



企業の教育分野への関心

- 企業の社会貢献活動実績調査結果では、分野別支出割合は「教育・社会教育」が最多。



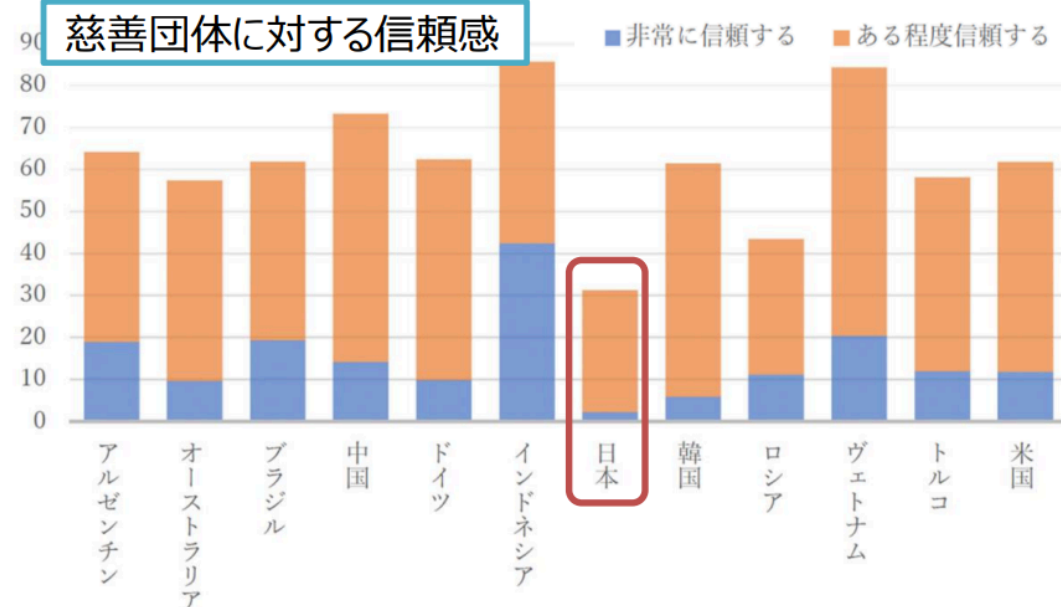
(参考・引用) 経済産業省Web調査、一般社団法人日本経済団体連合会1%クラブ「[2016年度社会貢献活動実績調査結果](#)」(2017年11月14日)を基に経済産業省作成

企業と学校教育との接点が不足している。教育効果の説明が不足

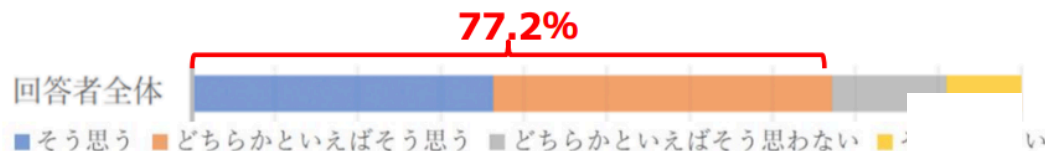
企業が教育支援活動を実施していない理由

	企業数(社)	回答率(%)
学校側からの支援依頼がない	200	43.5%
企業側の負担が大きすぎる	196	42.6%
教育効果が不明である	73	15.9%
企業のメリットがない、少ない	126	27.4%
教育に企業が関わる必要はない	10	2.2%
教育支援活動の取り組み情報が不足、やり方がわからない	113	24.6%
その他	104	22.6%

慈善団体への不信感／寄附に対する不安感

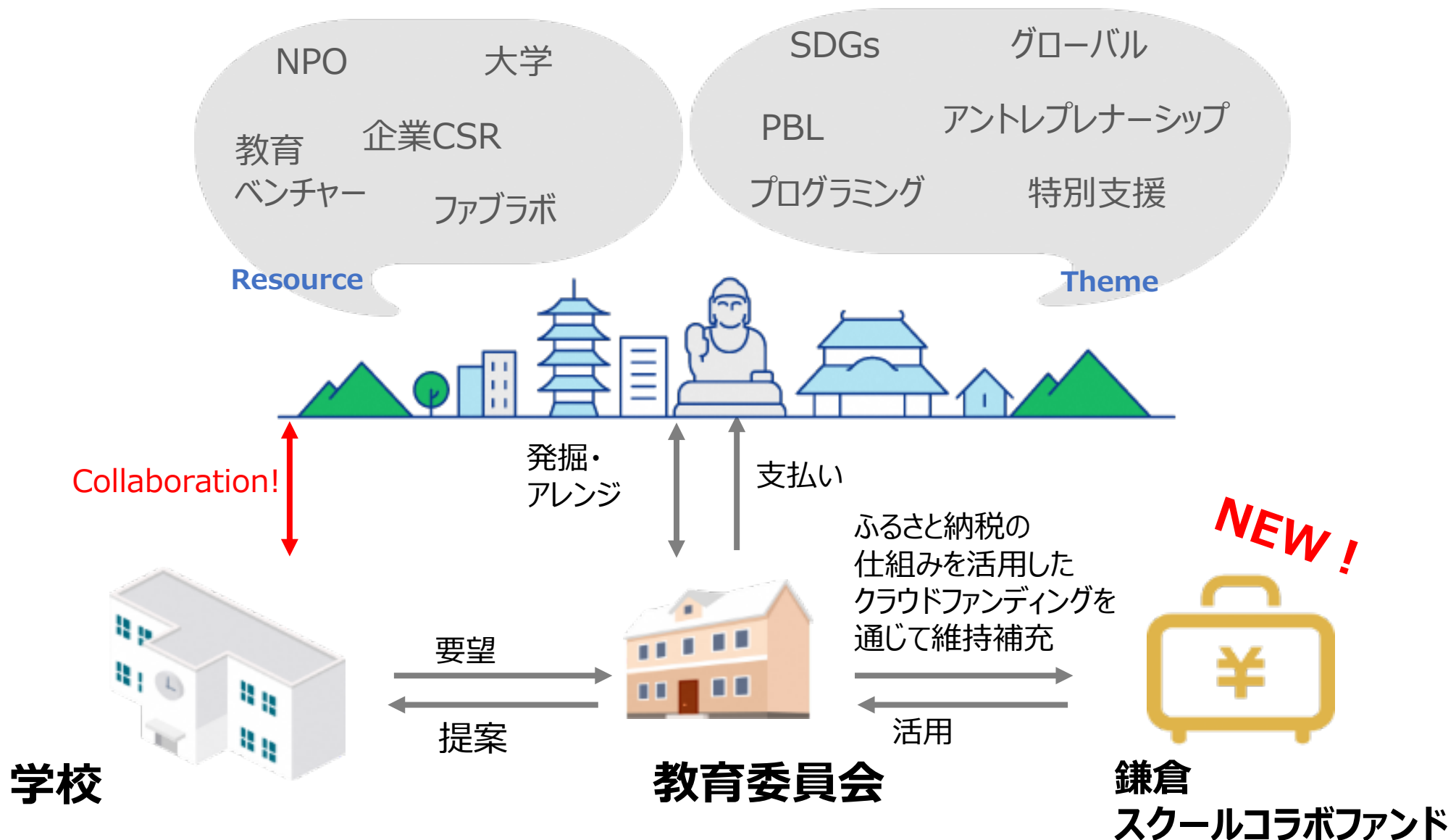


「寄附したお金がきちんと使われているのか不安を感じるか」



(参考) 東京商工会議所『「企業による教育支援活動」に関する調査集計結果について』(2013)、日本寄付財団 関西大学法学部坂本 治也教授「なぜ日本人は寄付をしないのか」

社会に開かれた教育課程の打ち手のひとつ
スクールコラボファンド後の世界



スクールコラボファンドで生まれた実践の数々



- 年間500万円程度で、約20プロジェクトを実施！
- 独自財源を持つことにより、これまで一般財源では難しかった教育実践を多様な企業・大学・NPOと連携しながら実現。
- 柔軟な執行の仕組みを確保し、その年に子どもや教師がワクワクする取組を準備期間なしで直ちに実践。
- 最先端の企業や団体と共に仕事をする中で教師自身の教育観が広がり、教育課程編成力が向上

慶應SFCやNPOとコラボしたSDGsのプロジェクト型学習



広告代理店とコラボした防災広告創造の実践



盲導犬団体やパラスポーツ団体とコラボした福祉の総合学習

JICAとコラボしたオールイングリッシュ国際交流



教材会社とコラボしたプラスチックアップサイクル学習



テックベンチャーとコラボしたプログラミング

手広中学校「ゴミを社会に還す」3Dプリンター

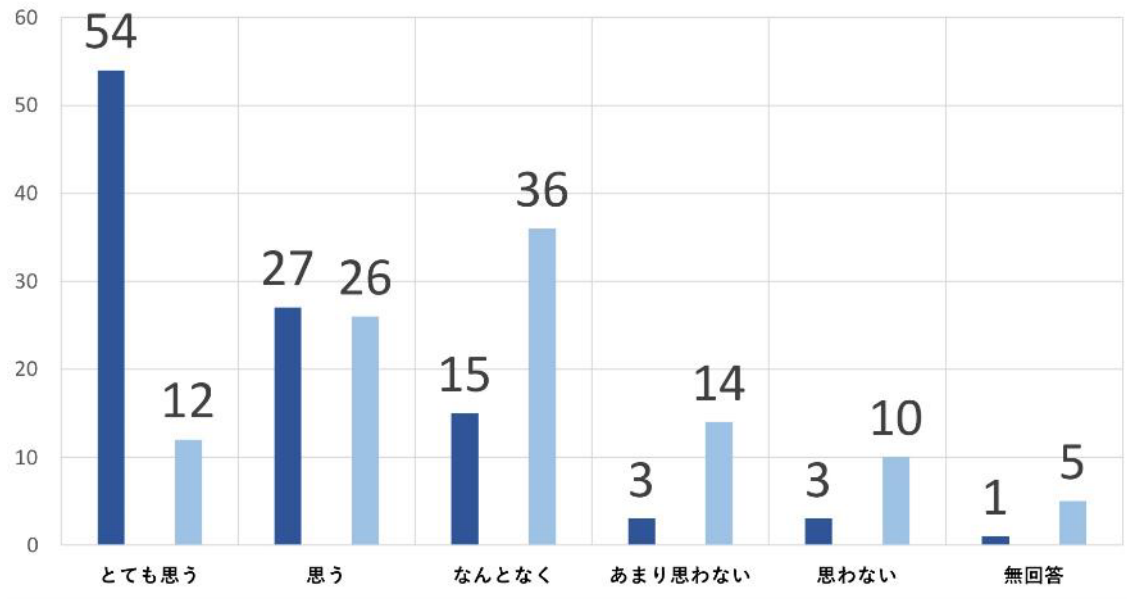
- みんなは3Dプリンターって知ってるかな？
立体の設計図をもとに、立体のモノを「印刷」できる先進的な装置で、なんと手広中学校にはその3Dプリンターがあるんだ！
- 手広中学校の3Dプリンターでモノを生み出すときに使う材料には、小学校で使い終わった朝顔の植木鉢が使われているよ！
- 先輩たちは、3Dプリンターを使って作ったものを地域の人にプレゼントしたりしているよ。ゴミが宝物に生まれ変わるなんて、素敵だね！



スクールコラボファンドの実践で「自分ごと」になる

自分達が動くことで、地域や社会が変わっていくと思う。

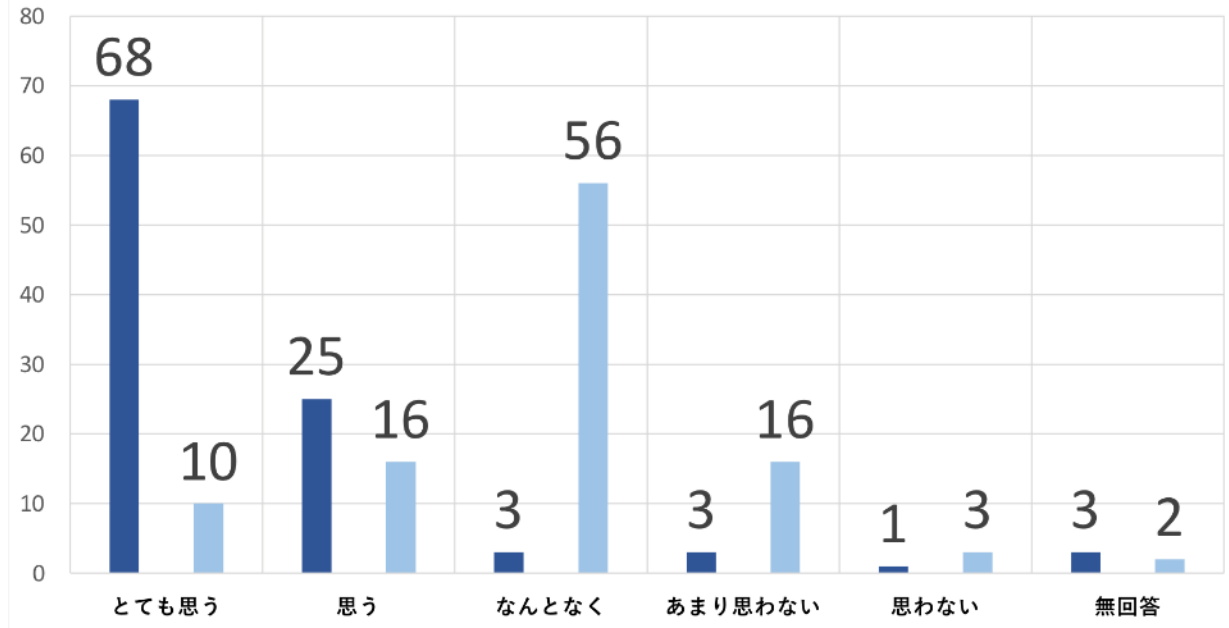
左側濃色が現在(After)・右側淡色が1年前(Before)



38% → 81%

SDGsは遠い世界の話ではなく、
自分と繋がりのあるものだと感じている。

左側濃色が現在(After)・右側淡色が1年前(Before)



26% → 93%

スクールコラボファンド事業委託報告書 未来をつかむスタディーズ提出資料より

満員御礼



探究学習シンポジウム

ホンネ de トーク

心に火を灯す鎌倉スクールラボファン



素敵な当日の様子を

ダイジェストで紹介！！



スクールラボファン

対話により 「探究的な学びを探究する」

進め、
鎌倉ペンギン

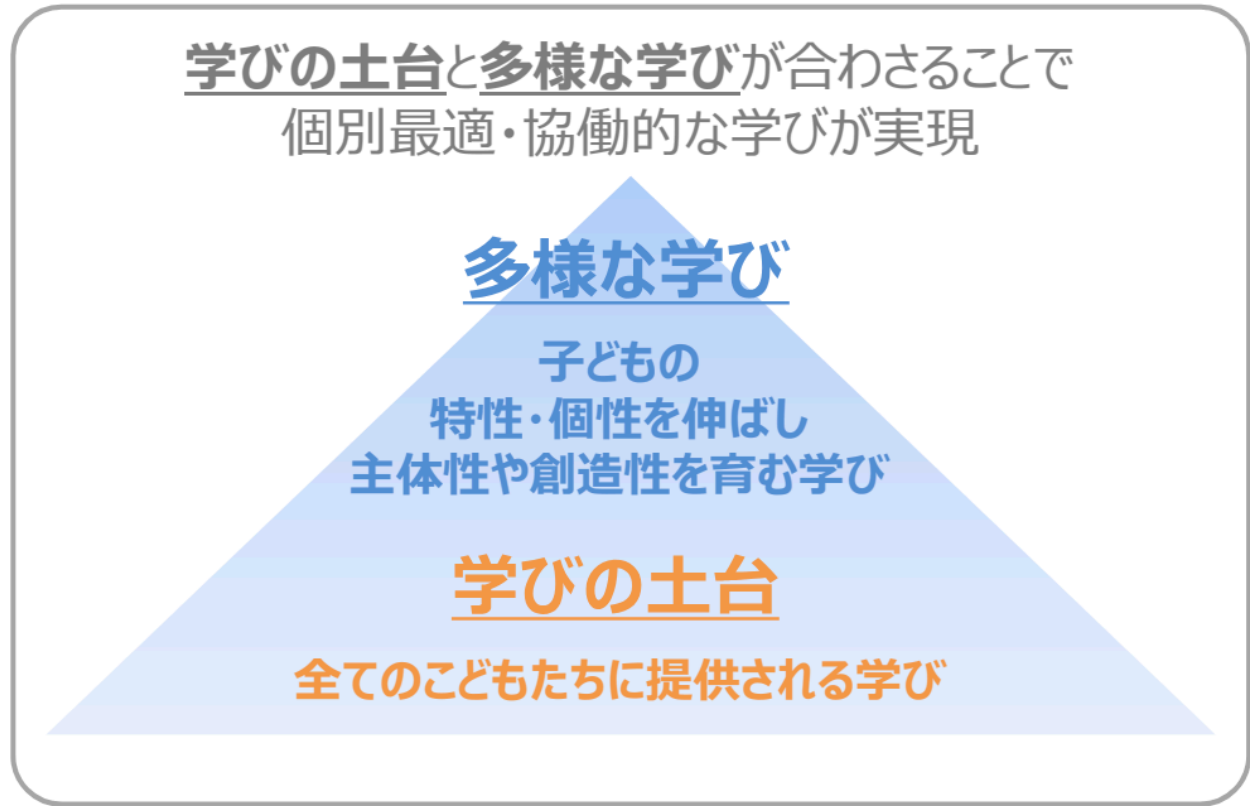


「Society 5.0」の時代を
しなやかに泳ぐ子どもたちを育む
鎌倉市教育委員会

鎌倉市教委の
挑戦を  note
で発信中！



「共助」の仕組みは、共生社会の教育に相応しいコンテンツ



自助

各家庭の経済状況や希望に応じて子どもたちが享受する学び（習い事・体験等）

共助

社会との連携により、意欲ある学校・子どもの挑戦を積極的に支援

公助

税財源でカバーし、全ての子どもに等しく提供される学び

寄付型自動販売機という打ち手

鎌倉 スクールコラボファンド

寄付型自動販売機



- 1本あたり定額が飲料メーカーから寄附
- 設置や置き換えは無料！
- 寄附金の振込は自販機会社が行うので自販機オーナーの手間や費用はなし！
- 新型に置き換えれば電気代も安くなる！
- ほぼ全ての飲料メーカーでも対応可能！

w/一般社団法人寄付型自動販売機普及協会

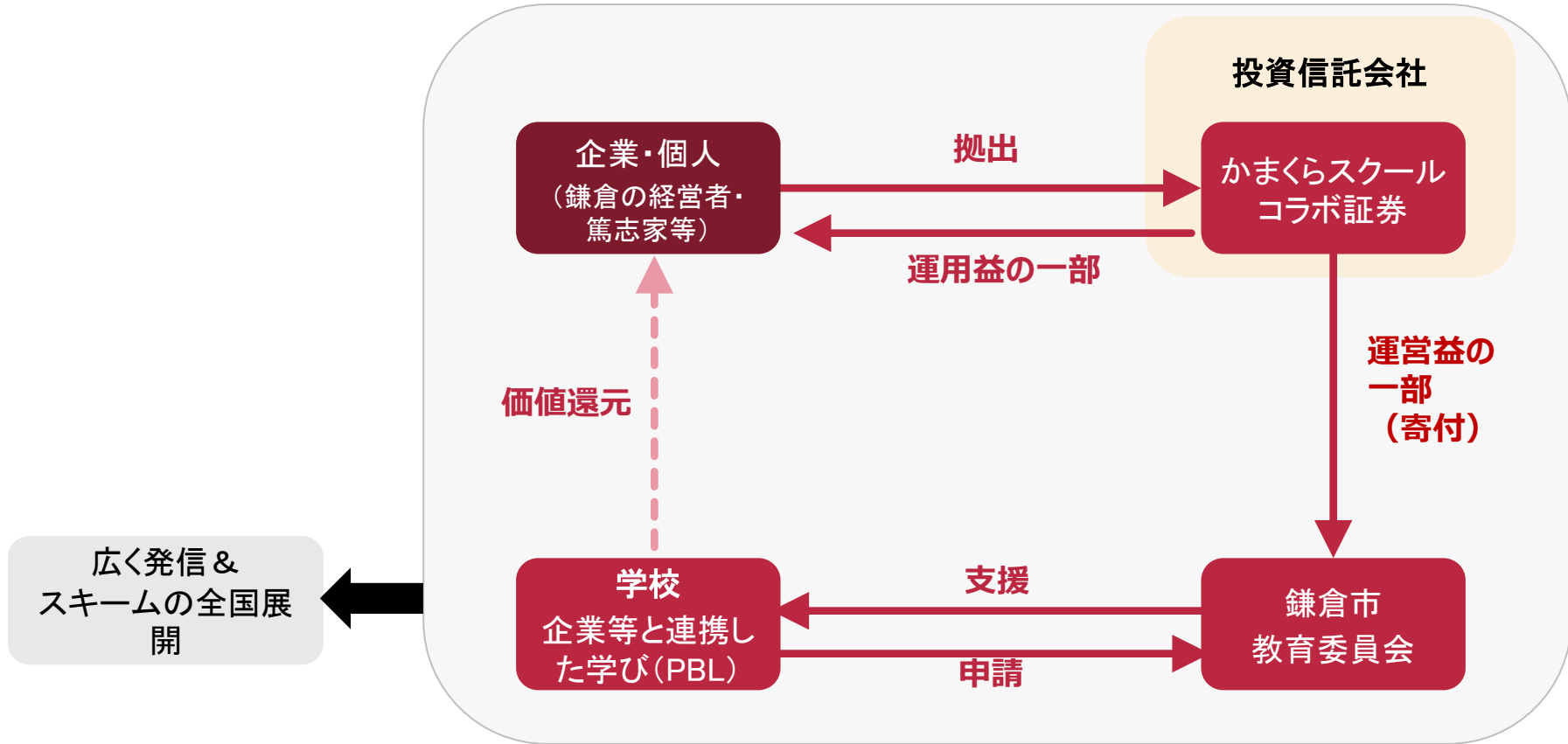
市民認知度向上

×

資金源多様化

スクールコラボファンドの展開 アイディア

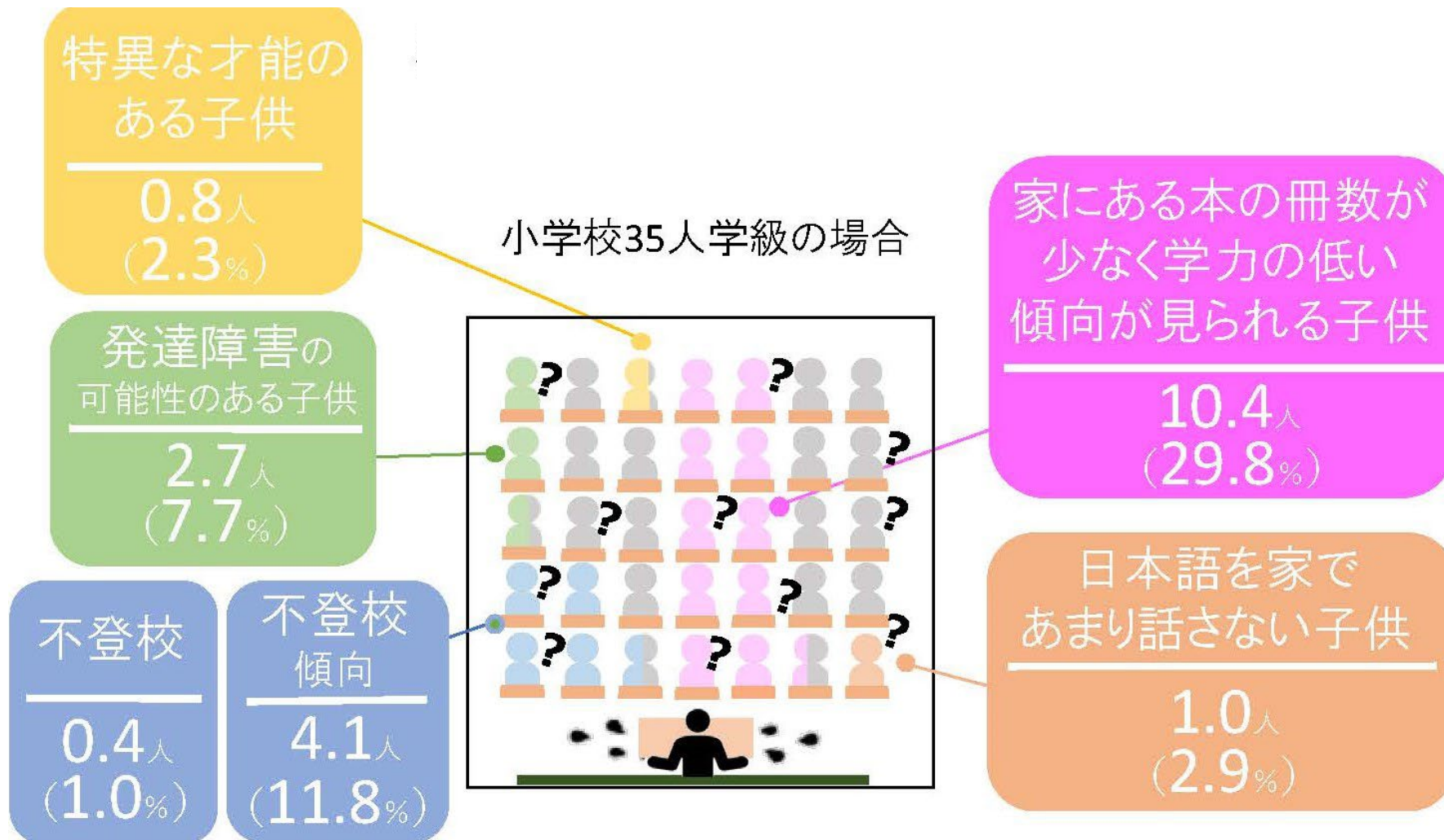
- 現状、ふるさと納税等による寄付金を活用して構築しているスクールコラボファンドについて、持続可能性と安定性を確保する観点から、投資信託の運用益で中長期的に尖った学びにチャレンジできる、鎌倉から社会に開かれた教育課程を実装する仕組みを検討中。



2

学びの多様化へ
<鎌倉ULTLA, 不登校特例校>

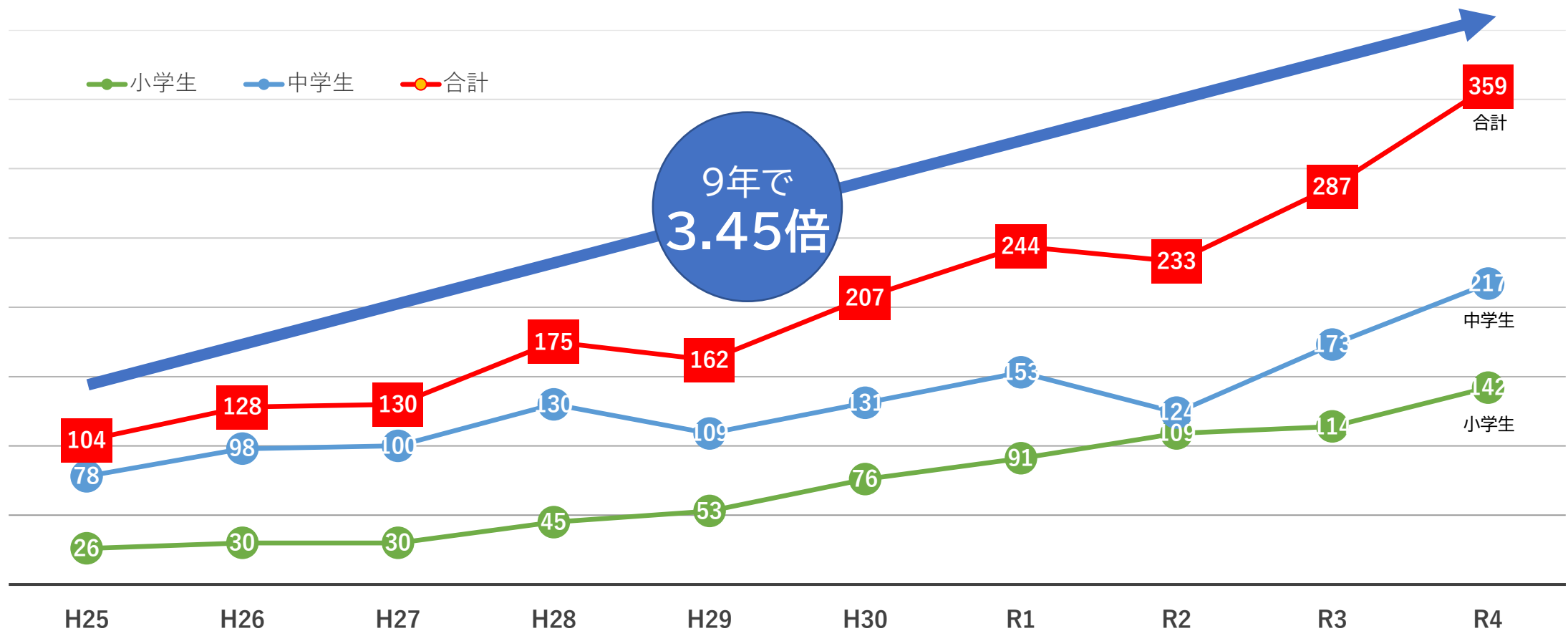
教室の中の多様性 政策的対応も拡大中



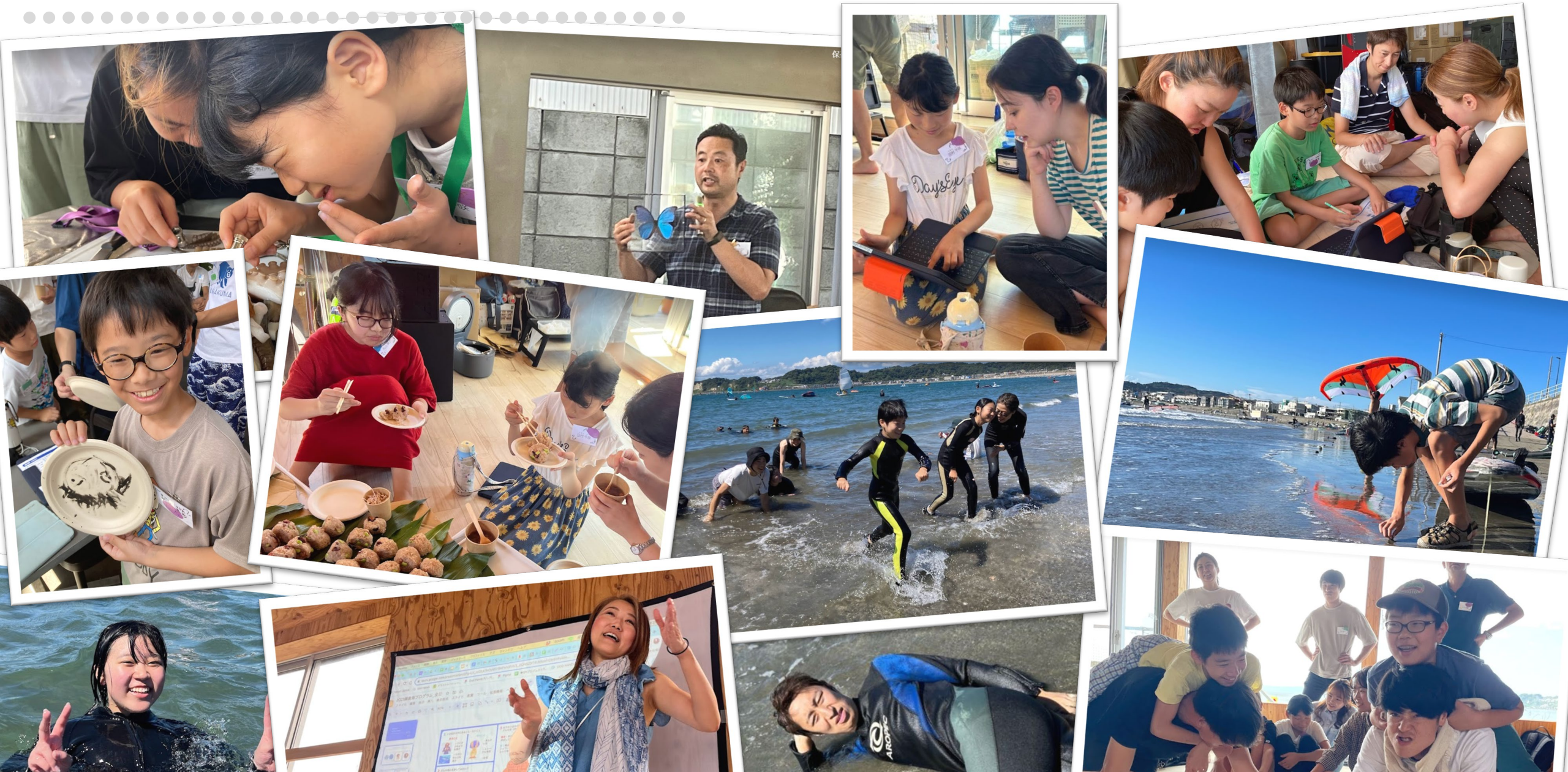
不登校児童生徒数は増加

学校に通うのがつらい子どもの本質的原因に迫れているか

- 鎌倉市でも全国と同様に不登校児童生徒数は増加



「なんて大人気ない大人たちなんだ！」「なりたい自分になれたよ！」



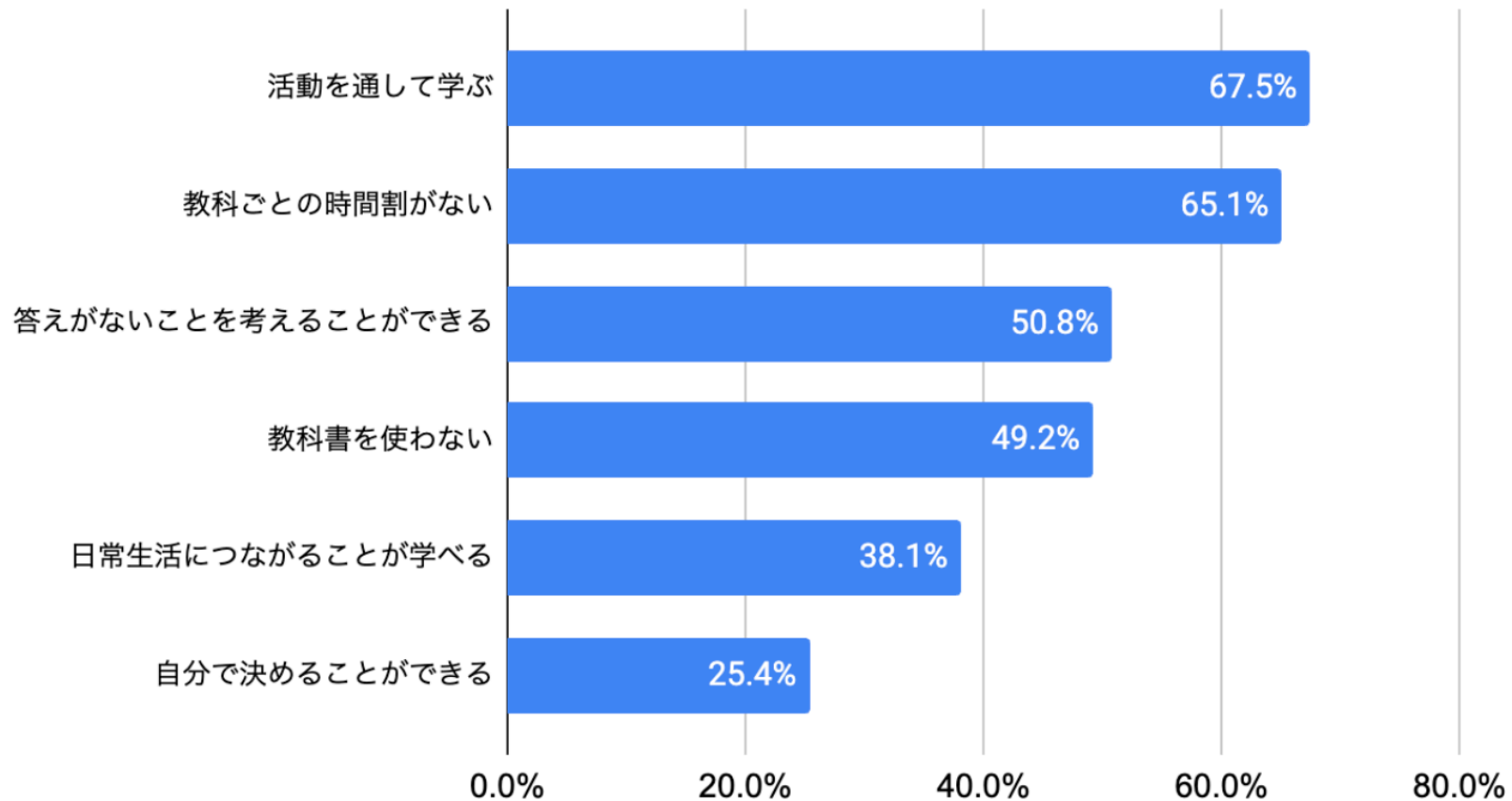
「はじめて自分を表現できた」「苦手な学びにもチャレンジ」



自分にあった学び方なら、学びたい

- 親子ともに**約9割**の方々がかまくらULTLAの学びを必要と回答

自分にあっていたと感じる学び方



2025年度開設予定「学びの多様化学校」

.....

自分らしく学び、自分らしく成長できる学校

- 鎌倉市立御成中学校の分校として開校
- 文科省よりカリキュラムを柔軟にする特例を受ける
- 設置予定地は鎌倉の中心地にあり、海にも山にも近い立地
- 定員は30名(各学年10名)程度を予定
- 「かまくらULTLAプログラム」のエッセンスを取り入れた
新教科「ULTLA(仮)」の実施を検討

入学希望者向け説明会フライヤー

不登校の子どもたちのための
新しい中学校

「鎌倉市立由比ガ浜中学校（仮称）」が令和7年4月に開校します！

らしさに 出あえる

もっと、自分らしく、学びたい。
もっと、自分らしく、成長したい。
学びの多様化学校『鎌倉市立由比ガ浜中学校』は、
そんな想いに寄りそう学校です。

一人ひとりが自分らしさを大切にしながら、
安心して学んでいけるように。
自分で考えて行動するだけでなく、他の人も協力して、
より良く生きる力を育てていけるように。

海と山、大空と教室。
そして、サポートするたくさんの人たち。
由比ガ浜中学校で過ごす毎日、
それは、自分らしさに出あえる時間です。

由比ガ浜中学校（仮称）の概要

- 文部科学省指定「学びの多様化学校（不登校特例校）」
- 所在地：鎌倉市由比ガ浜三丁目9番（江ノ島電鉄「由比ヶ浜駅」から歩いて2分）
- 学区：市内全域
- 定員：30名（各学年10名）程度
- 一般の中学校より授業時数を減らし、自分のペースで学べる柔軟な教育課程を組んでいます。
- 少人数を活かし、教職員やスクールカウンセラー等がいていねいにサポートします。
- 転入学する児童生徒は「学校体験」「教育相談」「転入学検討委員会」などを経て決定します。

対象となる
児童生徒

次の①～③のすべてに該当する児童生徒のうち、教育委員会が認めた児童生徒

- ① 鎌倉市内に在住している児童生徒
- ② 不登校状態または不登校傾向にある児童生徒
- ③ 由比ガ浜中学校で学びたいという思いのある児童生徒

※令和7年度転入学生徒の募集は、新1年生～新3年生それぞれ10名程度（現在小学6年生～中学2年生）

学校説明会のお知らせ

日時 令和6年8月18日(日) 14:00 開始 受付13:30～(1時間程度)
令和6年8月19日(月) 17:00 開始 受付16:30～(1時間程度)

※2日間とも同じ内容です。令和7年度に由比ガ浜中学校への転入学を希望・検討される方は必ずどちらかへの参加をお願いします。

場所 鎌倉市立御成小学校（鎌倉市御成町19番1号）

内容 学校概要 / 転入学の流れ / 質疑応答 等

参加対象者 由比ガ浜中学校への転入学を希望・検討する小学5年生～中学2年生の児童生徒及び保護者
※保護者の方、お子さんともにご参加ください。 ※小学5年生は今後の参考のため対象となっています。

申込方法 QRコードを読み込んでオンラインでお申し込みください。
※ごきょうだいで参加する場合は、お子さんごとにお申し込みください。



締め切り:令和6年7月31日(水)

意見交換会のお知らせ

説明会終了後、説明会にご参加いただいたお子さんや保護者を対象に、由比ガ浜中学校に関するご意見や思いを聴くための意見交換会を開催します。可能な方はぜひご参加ください。意見交換会でいただいたご意見を由比ガ浜中学校の教育活動に活かしていきます。

説明会終了後に1時間程度実施

少人数グループに分かれて
意見交換する予定です

申し込み時は意見交換会への
参加についてもご確認ください

問い合わせ先

鎌倉市教育委員会多様な学びの場づくり担当
tayou@city.kamakura.kanagawa.jp 0467-61-3826

鎌倉市ホームページ
「多様な学びの場づくりについて」



コンセプトイメージ

- 「子どもが学校に合わせる」から「学校が子どもに合わせる」へ
- 「大人が提供する学びの場」から「自分たちでつくりあげていく学びの場」へ
- 「一斉に学ぶ」から「自分のペースで学ぶ」へ
- 「教科ごとに学ぶ」から「教科の枠を超えて体験的・探究的に学ぶ」へ
- 「先生に教えてもらう」から「自分たちで学びとっていく」へ
- 「知識の習得」から「学び方を学ぶ」へ
- 「同一学年・クラス」から「異学年・少人数・個別など多様なスタイルで学ぶ」へ
- 「学校内だけで学ぶ」から「海や森、まちなど鎌倉全体で、様々な人々と関わりながら学ぶ」へ

魅力的な学びを外部資金で切り開く

コラボレーションによる魅力的な教育活動の実現

教育委員会におけるコラボ

- ・かまくらULTLA (feat. SPACE)
- ・GIGAワークショップかまくら (feat. LINE未来財団)
- ・プログラミング教育 (feat. Life is Tech!)

学校におけるコラボ支援

- ・鎌倉スクールコラボファンド
- ・SWPBS (第二小学校)
- ・STEAM Lab (手広中学校)

多様な学び場、企画担当 (民間資金等)

不登校等課題を抱える児童生徒への対応

既存策

- ・オンライン学習支援
- ・ひだまり
- ・フリースクール連携
- ・校内フリースペース

+ かまくら
ULTLAプログラム
(feat. SPACE等)

+ 学びの多様
化学校

日々の指導改善・学びの変革

既存策

- ・指定研究
- ・各種研修
- ・研究会
- ・学校訪問

+

GIGAスクール構想

- ・一人一台端末を活用した主体的・対話的で深い学び
- ・指導者用デジタル教科書
- ・AIドリル (すらら等) を活用した個別最適化した学習
- ・現場のニーズに応じた研修・サポート体制の整備
- ・運用のモデル校づくり、横展開

学校運営の土台強化

鎌倉版CSの推進

- ・地域・家庭・学識等さまざまな当事者で議論をして「社会に開かれた教育課程」の実現を目指す
- ・地域学校協働活動による持続的な運営

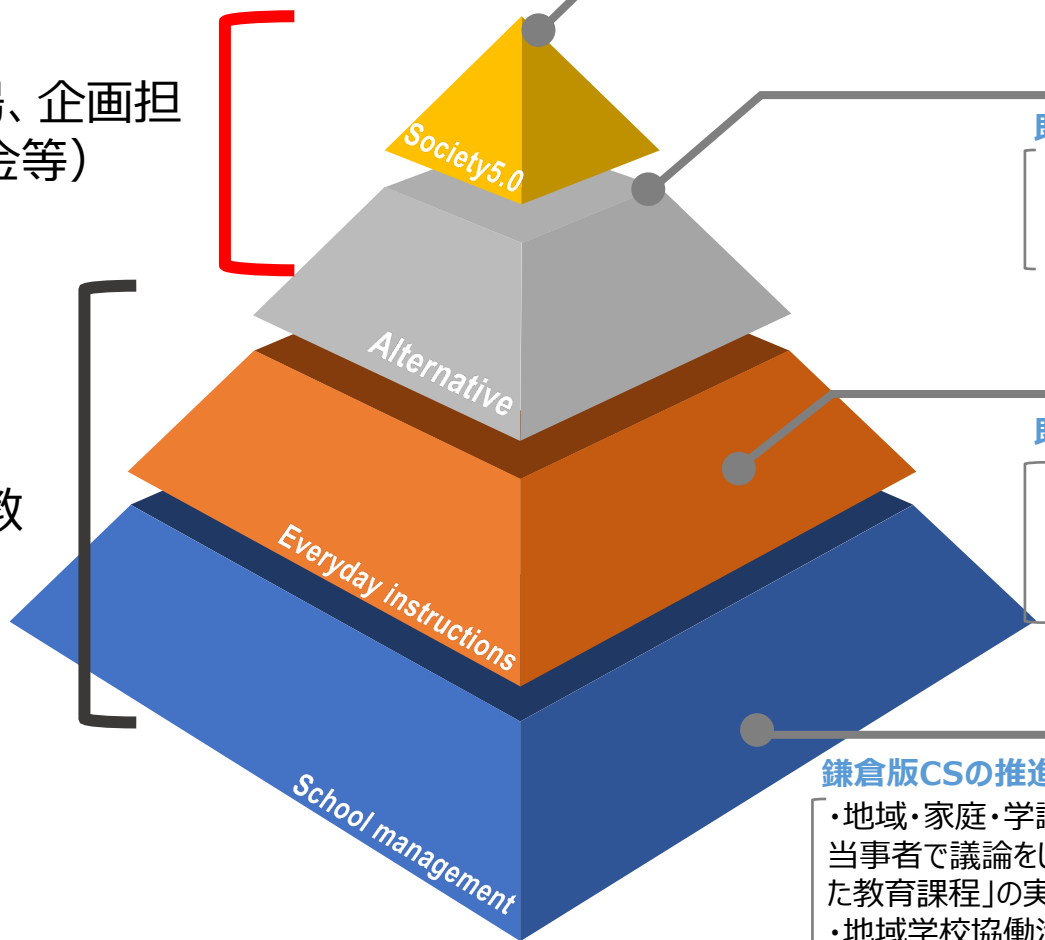
働き方改革

- ・職場環境改善プラン
- ・給食公会計化
- ・校務支援システム導入

特別支援・教育相談体制の強化

- ・児童支援専任の後補充
- ・学級介助員の増加
- ・子ども相談SOSフォーム

指導課・センター・教
担、生涯学習課
(公財政確保)



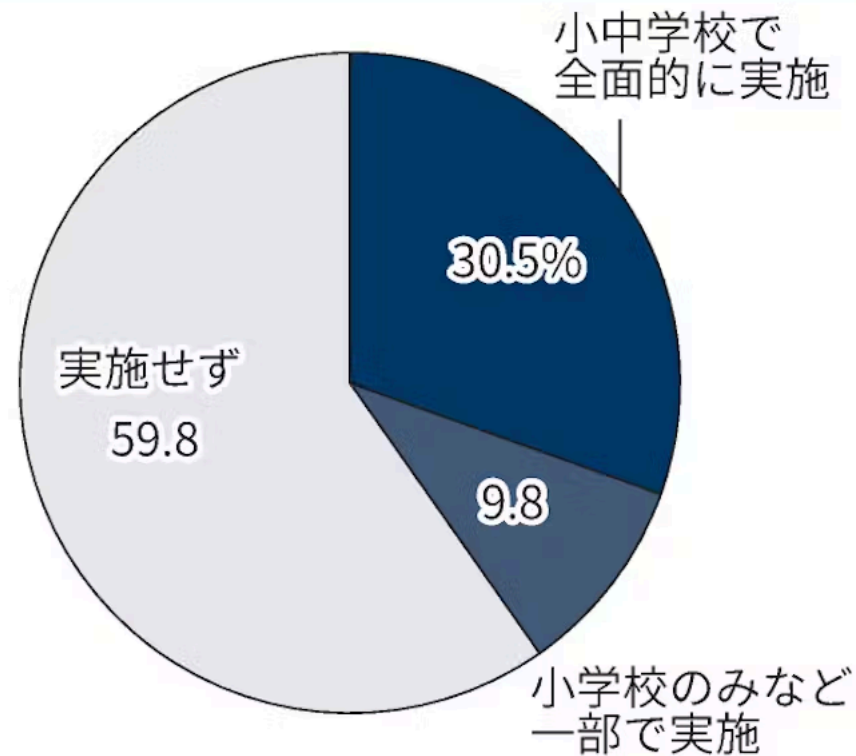
3

給食費など学習費

給食費 地域ごとに対応が問われている

- 学校給食法により、食材費は保護者の負担としており、各自治体が給食費として徴収している。低所得世帯は、就学援助により現物支給している。
- 6月、文部科学省がはじめての給食費無償化に係る調査結果を公表。給食費の全面無償化に取り組む自治体が約3割となった。現状、なんらの制度はないため、地方の完全なる持ち出しとなる。

自治体の給食無償化の状況



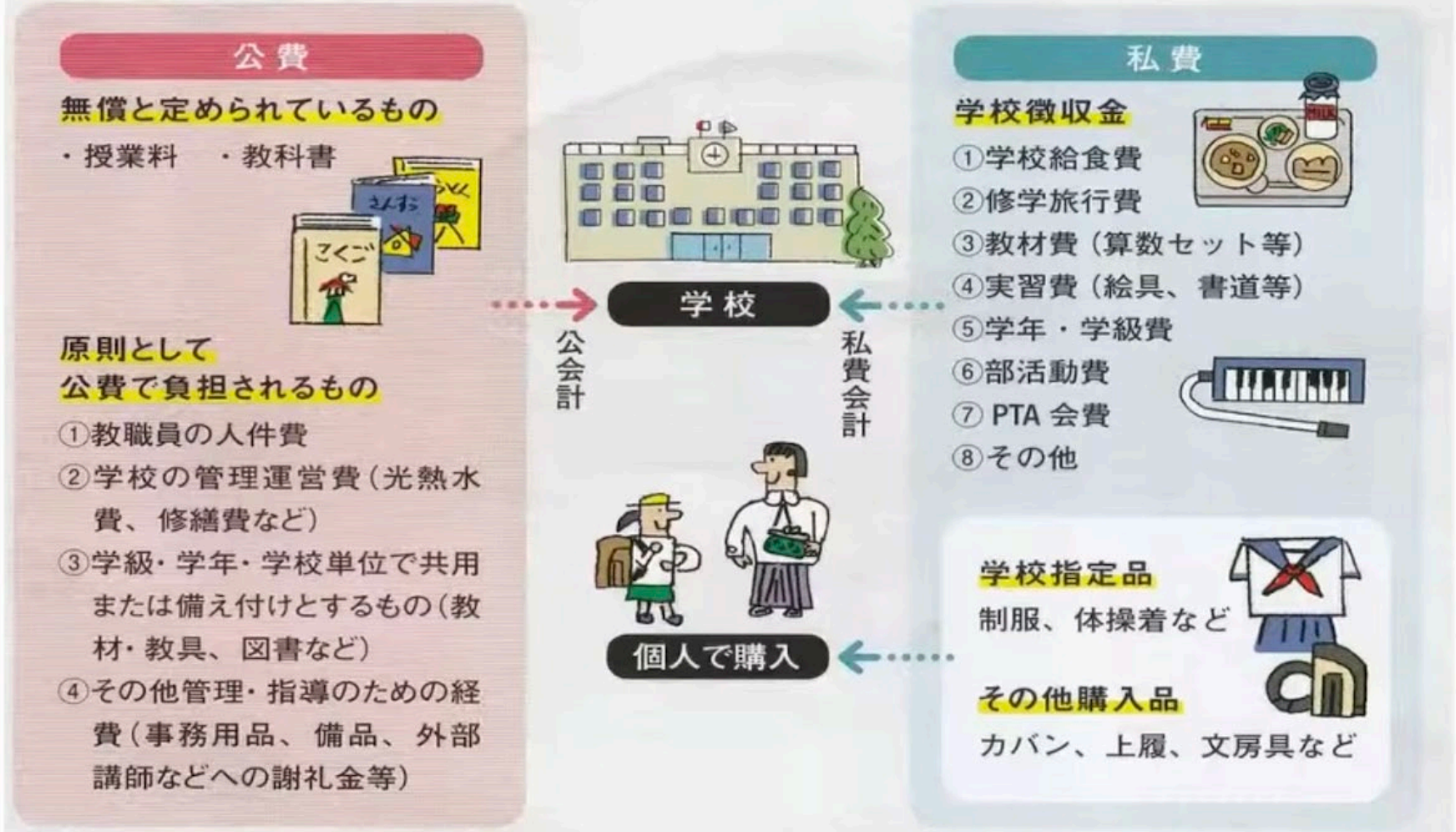
(注) 四捨五入のため合計100%にならない。
小中学校には特別支援学校などを含む

(出所) 文部科学省の2023年度調査

(出典) 日経新聞2024年6月13日

私費の就学経費の視点から、総合的に検討する必要

就学経費の内訳イメージ

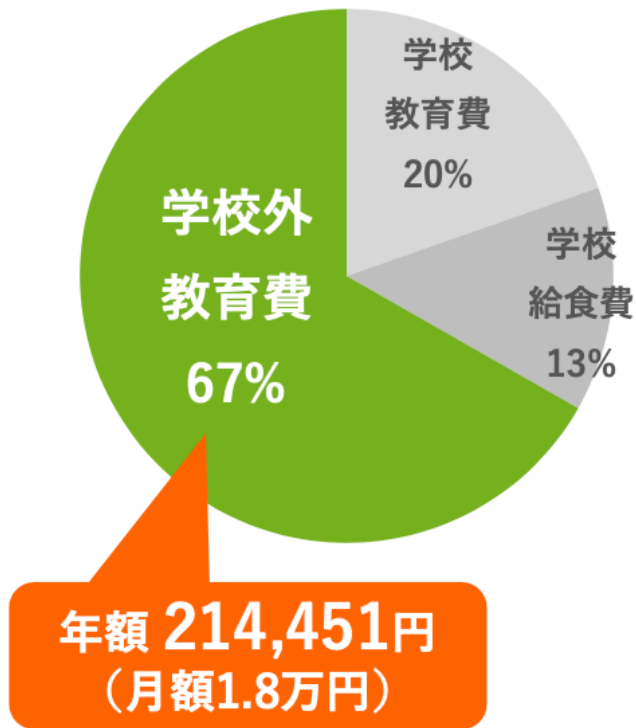


*上の項目はイメージです。実際の経費区分、公費私費の区分は自治体によって異なります。

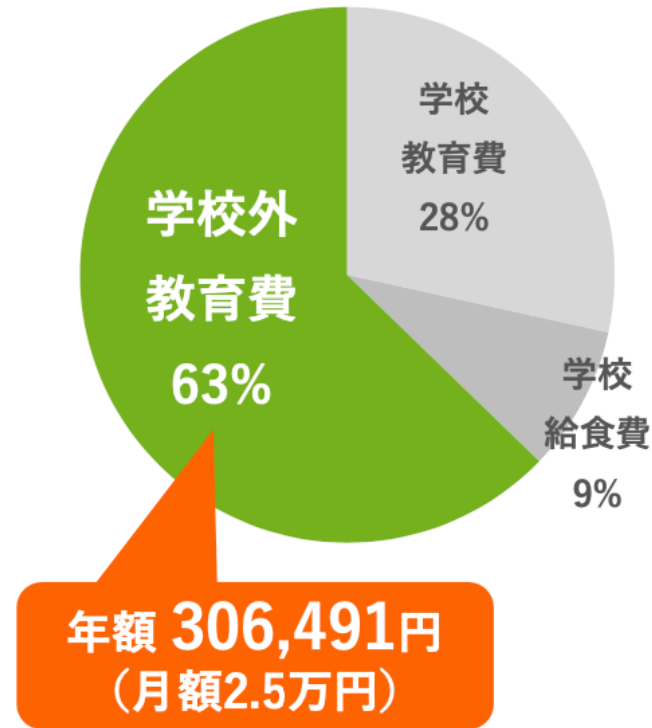
子どもの学習費全体で検討する必要あり

塾や習い事等の「学校外教育費」が最も負担が重い

小学生(公立)の教育費内訳



中学生(公立)の教育費内訳



出典：文部科学省「平成30年度子供の学習費調査」

4

おわりに

現代的な教育行財政の論点 1.歳入

1. 歳入

- 教育委員会に米国のような徴税権や税財源はない（独立行政委員会制であるが、予算編成権は首長に）。ただし、寄付を共助としての教育活動費に充てる取組も増加。補助金・交付金等が主たる収入ではあるが、企業や大学等とコラボした柔軟な支出が必要な探究的な学びに係るソフト経費などは、外部資金でというポートフォリオを組んでいけるとよい。
- デジタルや教材系は地方財政措置であり、教育委員会と財政部局の受け止めの違い。指導者用端末が用意されない？ あってはならないことも発生。教育政策リーダーのデジタルへの理解も壁に。
- 公立学校に「財布」がないことによる弊害。学校ごとに隠れた歳入（学校徴収金が補完財源に、私費という整理）。教材費、PTA費、エアコン費用…。給食費をはじめとして学校徴収金の公会計化を進めるべき。アジャイルな教育活動のために学校ではなく教育委員会が寄付財源・民間財源からの基金などを持つべき。

現代的な教育行財政の論点 2.歳出

2. 歳出

- 上乘せ・横だしとして、各自治体が補助金等も活用し、職員の配置を推進。しかし、地方が最も求める「正規教員」が難しく、現場は多様な職種に溢れている（SSS、教頭補佐など）。これはとてもありがたく、働き方改革に資するが、教育の質向上までいくことが必要。
- 給食費無償化、積極的な地方が先行。義務教育段階の再分配政策を地方が実施？教育費負担軽減は、学習費全体の中で検討する必要あり。
- 少子化の中にあっても、不登校特例校、特別支援教育、夜間中学校などのニーズは高まっている（初等中等教育段階の数少ない拡大・成長市場であり、教育委員会の優先度も高い政策）。プロダクトアウトから、マーケットインへ。
- NEXT GIGAスクール構想に向けて。学びを豊かにしようと思えば、いくらでも充実させられる。LTE、データ利活用、校務支援システム、AIドリル、授業動画、電子書籍、デジタル教科書など汎用性のあるツールを使いつつ、取捨選択する必要。デジタル人材不足。
- ネットワークが、LGWAN、校務系、指導系という3層構造という課題感。クラウド、ゼロトラストセキュリティで、校務系・指導系をマージへ。コスト感をどのようにこなしていけるか。教育データをどのように集め、管理していくか。